

APSH 上海サマースクール参加報告書

1) 慶応義塾大学保健管理センター

2) 慶応義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科

畔上達彦

この度、日本高血圧学会ならびに国際高血圧学会のサポートにより、2017年7月30日から8月4日にかけて開催された第2回 APSH (Asian-Pacific Society of Hypertension) サマースクールに Scholar として参加させて頂きました。本スクールでは、Dean である Trefor Morgan 教授をはじめとした国際高血圧学会でご活躍されている Faculty の先生方と、中国、オーストラリア、バングラデシュ、インド、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムから参加した Scholar たちと、5日間、濃密な時間を過ごすことができました。

Faculty からの Lecture では、各 Faculty の豊富な経験や深い知識を基に、とても示唆に富む講義を聴くことができました。Update な内容としては、最新の clinical trial や各国の guideline に関する話題や、腎交感神経除神経術の最新の動向など、自分では網羅しきれていなかった知識を身につけることができました。また、基礎研究を基にした講義では、免疫と高血圧、高血圧と臓器メモリー、腎内レニン-アンジオテンシン系など、いずれも、各 Faculty が長い年月をかけて研究してきた成果を、事細かに説明してくださいました。それぞれ、どのような動機で研究を開始したのか、得られた実験結果から次にどのような実験を行ったのかなど、一報の論文を読んだだけでは得られないような壮大なストーリーを実際に聴くことができ、非常に良い経験でした。また、私個人としては、睡眠時血圧、血圧変動、二次性高血圧、治療抵抗性高血圧など、オーソドックスなテーマでありながら、普段、集中的に勉強できないような内容に関して、第一人者の考え方を聴くことができたのも、得難い経験だったと思います。

また、本スクールでは、各 Scholar にテーマが与えられ、事前にそのテーマについて学習し、当日口頭で発表した後、Faculty を交えて皆でディスカッションしました。Trefor Morgan 教授、Garry Jennings 教授、Ernesto Schiffrin 教授が中心となって選考したテーマは、いずれも高血圧診療において基本的な内容ですが（私は仮面高血圧について発表しました）、各 Scholar の発表や Faculty の意見を聴き、ディスカッションすることで、自分が意外と表面的なことしか知らないことや、別の考え方があることに気づかされ、大変勉強になりました。休憩時間や食事の際には、各国の Scholar たちと話しをすることができましたが、各国の保健・医療制度、医学教育、社会環境などが、本邦と様々な点で異なることに驚くと同時に、各国の Scholar たちのモチベーションの高さに感銘を受けました。

今回参加させて頂いたサマースクールは、臨床高血圧の話題が主でしたが、臨床で高血圧を学ぶ若手医師のみならず、基礎研究に従事している若手医師にも、有意義であると思います。高血圧に関して、エキスパートからの意見を聞いたり（休憩時間や食事の際にも、気軽に意見を聞いたり、ディスカッションすることができました）、集中的に講義を聴く機会はなかなかありません。また、アジア、太平洋地域の若手医師（各国を代表するような若手医師だと思います）たちと交流することで、いろいろと刺激を受けることも多いと思います。高血圧のスペシャリストを目指す若手医師は、サマースクールに参加することで、知識や交流の輪を広げることができると思いますので、ぜひ次回のスクールに参加して頂ければと思います。